

## 浜の活力再生プラン

## 1. 地域水産業再生委員会

組織名	霞ヶ浦地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 薄井 征記

再生委員会の構成員	霞ヶ浦漁業協同組合 霞ヶ浦漁業協同組合玉造支部 霞ヶ浦漁業協同組合トロール部会 茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所 行方市
オブザーバー	—

※ 再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	霞ヶ浦におけるわかさぎ・しらうおひき網（トロール）漁業 他内水面漁業 (わかさぎ・しらうおひき網漁業：215 経営体)
-------------------	---

※ 策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

## 2. 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取りまく現状等

<p>霞ヶ浦は、琵琶湖と並ぶ全国屈指の淡水魚の産地で、接続する北浦と合わせ海区指定をされている。漁業の主力となるのは7月から12月まで操業されるわかさぎ・しらうおひき網漁業で、ワカサギ、シラウオ、テナガエビ等を中心に平成26年には約750tの水揚げがあった。</p> <p>これらの漁獲物は、多くが地場産業である煮干しや佃煮といった水産加工品の原料として使用されてきたが、近年、消費者の嗜好の変化や原発事故の風評被害といった需要の減少や魚価の低迷により、漁業経営は厳しい状態にある。</p> <p>霞ヶ浦は半閉鎖的な水域であることから、資源管理の必要性が高く、ワカサギの人工孵化事業は明治時代後半から行われてきた。しかし、地先毎に、多くの小漁協が存在していたことから、統一的にこれらの問題に対処する体制づくりは困難であったが、平成22年の漁協合併の実現および全湖の漁業の自主管理を担うトロール部会の設立により漁業者自らによる漁業管理が実施されている。</p>
---

## (2) その他の関連する現状等

<p>(1) 需要拡大・魚価対策</p> <p>①霞ヶ浦は、産地としての認知度は他の湖沼に比べて必ずしも高いとは言えない。そのため、近年、行方市で年4回行われる「行方市漁師市」等この地域資源を活用した市町村による地域の活性化を図る動きが活発化してきている。合併後の漁協はこれら</p>
--

に積極的に参加し、水産資源の認知度向上と風評被害の払拭に努めている。

②平成 27 年度には、改革意欲の高い若手漁業者による霞ヶ浦水産研究会が結成された。平成 28 年度も、漁業収入の増加に向け、漁業者は、鮮度の向上試験や新製品開発等を実施している。

#### (2) 資源管理・漁場保全対策

①トロール部会により、資源の状況に合わせて、漁業者自ら操業時間や操業区域を決定する自主管理の操業体制へ移行した。

②漁業者は、ワカサギ人工孵化放流事業やウナギ放流事業、水生植物帯の保全事業を実施している。

### 3. 活性化の基本方針 漁業者が

#### (1) 基本方針

漁獲量の大きな増加が期待できない状況において、漁業者の経営安定のためには、魚価の向上が重要である。

一方、燃油費は、漁業経費の変動部分の大きな比重を占めることから、合理的な操業時間の設定により、無駄な操業を減少させ、燃油コスト削減を図り所得の向上を目指す。

#### ●漁業収入を向上させるための取組

##### ◎魚価向上の取組

###### ①品質の向上と新製品の開発

漁業者は、主力であるわかさぎ・しらうおひき網漁業の操業時から、船上保管、出荷まで一連の過程における鮮度管理を徹底し、ワカサギの品質向上を図る。これとともに、高鮮度ワカサギを原料とした冷凍製品（長期間保存の可能な真空凍結・従来の佃煮等加工用の大ロットで冷凍させていたものから、「ワカサギ天ぷら」。「ワカサギフライ」等飲食店で使用が可能な小ロットでの凍結・サイズ別凍結等）を開発し、魚価の向上と安定供給による収入向上を図る。

###### ②消費拡大対策

当地区は、他産地に比べて首都圏に属している等地理的に優位な立場であるにもかかわらず、産地としての知名度は高くない。そのため、漁業者は、「夏わかさぎ」「秋の川えび」「寒曳きわかさぎ・しらうお」等旬の時期の重点的な PR、地域のイベント等への積極的参加や、これらの水産物を取扱っている販売店や飲食店の情報をホームページやパンフレットで提供する等の取組を行い、水産物の認知度の向上及び地産地消を推進する。

この他、漁業者は、ワカサギを利用しやすい形態で冷凍した新製品を地域の飲食店に提供し、地元需要の底上げを図る。

###### ③資源管理

漁協は、トロール部会による漁業管理を継続して実施し、資源の状況に応じた効率的な操業を行うと共に、ワカサギ人工孵化放流事業を実施し、水産資源の増大を通じ、漁業収入の増加を図る。

#### 漁場環境保全

地域の2つの活動組織等と連携し、漁場環境保全に努め、水産資源の増大を通し、漁業収入の増加を図る。

#### ●漁業コストを削減させるための取組

④漁協及び漁業者は、ワカサギ・シラウオ・エビ等魚種毎の生態にも合致し、天候・需要に応じた操業時間帯を設定し、商品の価値を損なう効率の悪い操業をなくすことにより、燃油費の削減を図る。

#### (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保的措置

霞ヶ浦では、平成22年度より、漁業者による自主的な漁業管理が行われている。

わかさぎ・しらうおひき網自主管理協定：平成22年度制定

#### ●ワカサギ・シラウオ・テナガエビの資源管理

##### ①トロール部会により決定する事項

・操業時間・出港時間・漁獲量制限・品質確保・衛生管理対策

##### ②資源管理について

資源の持続的利用と漁業者の経営安定を図るため、毎年の資源動向及び市場動向等を勘案したうえで、資源管理のための必要な措置を別途講じることができるものとする。

(平成27年は、7/21～12/31の操業期間中に計8回のトロール部会が開催され、操業時間を2～5時間に適宜変更しながら水揚げの安定に努めた。また、テナガエビは、漁獲量が減少傾向にあることから、エビの発生状況や商品価値等を見極めた結果、漁獲期間を9/14から11/30に制限し、さらに11/16からは一部区域を操業自粛とした。)

(3) 具体的な取り組み内容

1年目(平成28年度 所得3%増)

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により基準年度より収入 1%増を目指す。</p> <p>◎魚価の向上</p> <p>①品質の向上と新製品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁獲物の魚価向上の取り組みを検討するため、漁協は先進地視察および事例研究を行う。(視察先:茨城県大洗地区)</li><li>・漁業者は、ワカサギについて、高鮮度の状態で漁獲するための、曳網時間の設定、船上から出荷までの氷の使用法等漁獲物管理方法等の開発を行う。</li><li>・漁業者は、高鮮度の漁獲物を使用し、冷凍商品の開発を行う。</li></ul> <p>②消費拡大対策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁協は、地元イベントにおいて、当地区の水産物の試食販売を行う(平成28年度:7回参加予定)。</li><li>・漁協は、霞ヶ浦北浦水産振興協議会と連携し、地元での取扱い販売店・飲食店の情報を収集、ホームページやパンフレット等で発信し、地産地消を促進させる。</li></ul> <p>③資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁協は、ワカサギ人工孵化放流(平成28年度計画:3億粒)を行うとともに、漁業者自らによる適正な漁獲管理を行うことで、水産資源の増大を図る。</li></ul> <p>漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁業者は、水産多面的機能発揮対策事業を活用しつつ、水生植物帯等沿岸漁場環境の保全活動を推進する。</li></ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により基準年度より支出 1%減を目指す。</p> <p>④漁協及び漁業者は、漁獲効率のいい時間帯で、高鮮度で漁獲できる操業方法を検討し、効率の悪い操業を減少させ、燃油費の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業

2年目（平成29年度 所得5%増）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により基準年度より収入 2%増を目指す。</p> <p>◎魚価の向上</p> <p>①品質の向上と新製品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、前年度に開発した漁獲物管理方法の更なる普及を行う。</li> <li>・漁業者は、地元飲食店等での必要性を踏まえ、ワカサギについて、飲食店で短時日で無駄なく使用でき、解凍後のロスが少なく、すぐに解凍できる 500g 程度の真空冷凍パックの商品の開発を行い、単価の向上を目指す。</li> <li>・漁業者は、ワカサギについて、これまでの成果を元に、取扱店舗の増加を目指す。</li> </ul> <p>②消費拡大対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、地元イベントにおいて、当地区の水産物の試食販売を行う（7回参加予定）。</li> <li>・漁協は、霞ヶ浦北浦水産振興協議会と連携し、地元での取扱い店の増加分を更に追加し、ホームページやパンフレット等で発信し、地産地消を促進させる。</li> </ul> <p>③資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、ワカサギ人工孵化放流を行うとともに、漁業者自らによる適正な漁獲管理を行うことで、水産資源の増大を図る。</li> </ul> <p>漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、水産多面的機能発揮対策事業を活用しつつ、水生植物帯等沿岸漁場環境の保全活動を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により基準年度より支出1%減を目指す。</p> <p>④漁業者は、前年の成果を受け引き続き合理的な時間での操業を継続し、燃油費の削減を継続する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

3年目（平成30年度 所得7%増）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により基準年度より収入3%増を目指す。</p> <p>◎魚価の向上</p> <p>①品質の向上と新製品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、前年までの成果を踏まえ、漁獲物の選別方法を改良し、サイズ別出荷手法の開発を行う。</li> <li>・漁業者は、選別手法の開発を受け、サイズ別の冷凍品の開発を行い、単価の向上を目指す。</li> <li>・漁業者は、ワカサギについて、店側が使用しやすい量目での冷凍商品の普及販売を推進し、取扱店舗の増加を目指す。</li> </ul> <p>②消費拡大対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、地元イベントにおいて、当地区の水産物の試食販売を行う（7回参加予定）。</li> <li>・漁協は、霞ヶ浦北浦水産振興協議会と連携し、地元での取扱い店の増加分を更に追加し、ホームページやパンフレット等で発信し、地産地消を促進させる。</li> </ul> <p>③資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、ワカサギ人工孵化放流を行うとともに、漁業者自らによる適正な漁獲管理を行うことで、水産資源の増大を図る。</li> </ul> <p>漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、水産多面的機能発揮対策事業を活用しつつ、水生植物帯等沿岸漁場環境の保全活動を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により基準年度より支出1%減を目指す。</p> <p>④漁業者は、前年の成果を受け引き続き合理的な時間での操業を継続し、燃油費の削減を継続する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

4年目（平成31年度 所得9%増）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により基準年度より収入4%増を目指す。</p> <p>◎魚価の向上</p> <p>①品質の向上と新製品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、冷凍品についての長期的な保管方法についての検討を行う。</li> <li>・漁業者は、ワカサギについて、サイズ別製品の普及販売を推進し、付加価値の向上と取扱店舗の増加を目指す。</li> </ul> <p>②消費拡大対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、地元イベントにおいて、当地区の水産物の試食販売を行う（7回参加予定）。</li> <li>・漁協は、霞ヶ浦北浦水産振興協議会と連携し、地元での取扱い店の増加分を更に追加し、ホームページやパンフレット等で発信し、地産地消を促進させる。</li> </ul> <p>③資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、ワカサギ人工孵化放流を行うとともに、漁業者自らによる適正な漁獲管理を行うことで、水産資源の増大を図る。</li> </ul> <p>漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、水産多面的機能発揮対策事業を活用しつつ、水生植物帯等沿岸漁場環境の保全活動を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により基準年度より支出1%減を目指す。</p> <p>④漁業者は、前年の成果を受け引き続き合理的な時間での操業を継続し、燃油費の削減を継続する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

5年目（平成32年度 所得11%増）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により基準年度より収入5%増を目指す。</p> <p>◎魚価の向上</p> <p>①品質の向上と新製品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期にわたって高鮮度に冷凍可能な製品をワカサギ漁の休漁期（1～6月）に供給することにより、年間を通じた供給体制の構築を図るとともに、取扱店舗の増加を目指す。</li> </ul> <p>②消費拡大対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、地元イベントにおいて、当地区の水産物の試食販売を行う（7回参加予定）。</li> <li>・漁協は、霞ヶ浦北浦水産振興協議会と連携し、地元での取り扱い店の増加分を更に追加し、ホームページやパンフレット等で発信し、地産地消を促進させる。</li> </ul> <p>③資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、ワカサギ人工孵化放流を行うとともに、漁業者自らによる適正な漁獲管理を行うことで、水産資源の増大を図る。</li> </ul> <p>漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、水産多面的機能発揮対策事業を活用しつつ、水生植物帯等沿岸漁場環境の保全活動を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により基準年度より支出1%減を目指す。</p> <p>④漁業者は、前年の成果を受け引き続き合理的な時間での操業を継続し、燃油費の削減を継続する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

（4）関係機関との連携

<p>・地域再生委員会は、取組の効果が十分に発現されるよう、行政機関（関係市町村）、系統団体（茨城県水産加工業協同組合、隣接漁協等）、地域団体（霞ヶ浦北浦水産振興協議会、商工会、観光協会等）との連携を密にするとともに、県内外の流通・販売業者、飲食店等についても新たな連携を図る。</p> <p>・また、漁場環境保全について、地元の環境保全団体等と連携し、活動する。</p>
--

#### 4. 目標

##### (1) 数値目標

漁業所得の向上 以上	基準年	平成 年度： 千円
	目標年	平成 年度： 千円

##### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※ 算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

#### 5. 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関連性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関連性
水産多面的機能発揮対策事業	・水生植物帯保全等の環境保全活動による漁場環境の改善を通じ、漁業資源の維持増大を図り、それによる所得の向上を実現する。